

変化の時代を前向きに生きる

校長 相川 保 敏

明けましておめでとうございます。

今年は干支で申しますと「うま年」に当たります。馬と人間との関係は古く、紀元前 4,000 年ごろ食用として飼われ始め、その後騎乗用としても飼われるようになっていったようです。そして、農耕馬、馬車、軍用馬など幅広く使われるようになっていきました。

さて、馬にまつわる故事として、古くから語り継がれているものに「塞翁が馬（さいおうがうま）」があります。国境の塞に住む老人の馬が逃げ出し、人々が不幸を嘆いたところ、その馬はやがて立派な馬を連れて戻ってきます。今度は幸運だと喜ばれますが、その後、老人の息子がその馬から落ちて大けがを負います。しかし、そのけがのおかげで戦に出ることを免れ、命を落とさずに済んだという結末を迎えます。この故事は、目の前の出来事を安易に「不幸」や「失敗」と決めつけることの危うさを、私たちに静かに教えてくれます。

子どもたちの成長の歩みも、まさにこの「塞翁が馬」の教えと重なります。一つひとつの挑戦は、必ずしも思い通りの結果につながるとは限りません。しかし、うまくいかなかった経験の中こそ、次の成長への大切な学びが隠れています。結果だけを見るのではなく、挑戦しようとした過程や、その一歩を踏み出した勇氣に目を向けることが何より重要です。

本校では、4月号でもお伝えしたとおり、子どもたちが安心して失敗し、そこから学び、再び挑戦できる教育環境の充実を大切にまいりました。一方で、「間違えてはいけない」「失敗したら恥ずかしい」という思いから、残念ながら本来もっている力を十分に発揮できず、新たな挑戦をためらってしまうお子様の姿もまだ見られます。学校と家庭が同じ方向を向き、挑戦する姿を温かく支え続けることが、子どもたちの自己肯定感を育み、未来を切り拓く力へとつながると信じております。新しい年の始まりにあたり、「塞翁が馬」の教えを胸に、子どもたち一人ひとりが前向きに歩みを進めていけるよう、保護者の皆様のご協力をいただきながら全力を尽くしてまいりたいと存じます。

本年もどうぞよろしくお願い致します。

新春始業式



本年度3学期始業式は、これまでもお伝えしてありますように、コロナ禍で中止となっていた初泳ぎを6年ぶりに再開いたしました。

初泳ぎは、当学園出身の大先輩である前畑秀子氏(1936年ベルリン五輪女子200m平泳ぎで日本人女性初の金メダル獲得)にあやかって児童の泳力向上を願うとともに、児童一人一人も新たな決意をもって一年をスタートさせてほしいとの思いから1983年に始まった伝統行事でした。しかし、本年度6年生はコロナ禍に入学したため一度も初泳ぎをした経験がありません。6年生の児童から「初泳ぎを経験したい」という声上がり復活に踏み切りました。ただし、これまでの全学年ではなく、人数を1/3にし換気やスペースの問題に対応できるよう2学年で行うことに決めました。これからも3・6年生で初泳ぎを実施していきます。併せて、書き初め(1・4年生)、百人一首かるた始め(2・5年生)も実施いたしました。最後に、全校で鏡開きのぜんざいをいただきました。日本の伝統行事と本校の伝統行事をコラボした新春始業式の感想をお子様から聞いていただければ幸いです。

児童会役員の抱負

6年 会長 一期一会 (いちごいちえ)
 副会長 創意工夫 (そういくふう)
 書記 百折不撓 (ひゃくせつふう)
 5年 副会長 公明正大 (こうめいせいだい)
 書記 創意工夫 (そういくふう)

今年も児童会役員が各自の抱負を4文字熟語で表してくれました。令和8年もより良い学校づくりを目指してくれるものと期待しています。